

鉄道特性活性化P T最終答申策定に向けて岐阜・大垣を視察！

～創り守り育てる地域公共交通について学ぶ 岐阜市との意見交換・視察～



座長として挨拶する小川淳也衆議院議員

4月12日、鉄道特性活性化P T活動として、岐阜市との意見交換会と現地視察を行った。

P Tの座長である小川淳也衆議院議員（J R連合国会議員懇談会事務局長）とアドバイザーである太田和博専修大学教授を含めP Tのメンバーら16人で岐阜市役所庁舎を訪問し、松原岐阜市議会議員（私鉄総連名鉄労組出身）の仲介のもと、河江委員長（名鉄労組鉄道西部支部）と岐阜市の交通政策に関する意見交換を行った。

岐阜市は、改正地域公共交通活性化再生法に基づく「地域公共交通再編実施計画」が国土交通省に認可された最初の自治体である。2005年に名鉄路面電車（岐阜市内線）から撤退し、バス転換を図ったが、その後、主要路線の重複や岐阜駅前の交通渋滞と、これに伴うバスの遅延と利便性低下に加え、マイカー普及バスの利用者減少などが課題となっていた。岐阜市は、2015年3月に地域公共交通網形成計画を策定し、「地域公共交通再編実施計画」を策定してきた。

河江委員長と松原議員から、路面電車の路線廃止に至る経緯、当時の市長をはじめ、市議会や住民の受け止め等についても説明を頂いた。また、岐阜市の青木交通総合政策審議監からは、岐阜市「地域公共交通再編実施計画」をはじめとする交通政策についての現状、課題に関する詳細な説明を頂いた。さらには、多くの自治体が事業者と連携できていないことや、交通政策に関する豊富な知識と経験を持つ専門者が不足していること、自治体の担当者も地域住民も地域公共交通に対する理解を深めていくことの重要性についての話があった。現在、岐阜市は、①まちづくりとの連携、②ICカード活用を図る網計画の策定、③ビックデータの積極活用、④人口減少に対応できる持続可能な公共交通の確立、などについて取り組みを進めておられる。また、「岐阜市みんなで創り守り育てる地域公共交通条例」の制定が、市や住民、公共交通事業者の役割を明確化し、交通政策を進めていくベースになっていることについてもご紹介頂いた。

意見交換後、市内循環として活躍する岐阜バスの連節バスに試乗するなどしてバスの利便性を視察・体感した。また、路線廃止となった名鉄路面電車（旧市内線・谷汲線）の沿線を視察した。同線の各拠点駅跡地は、現在も地域の生活の拠点や公園などとして整備されている。旧黒野駅は、黒野レールパーク・黒野ミュージアムとして子供の遊び場・公園として整備され、レールの一部や駅ホームのほか、標識や業務ツールもシンボリックに保存されている。



岐阜市内を循環する連節バス



旧黒野駅を視察するP T視察メンバー

～沿線の関係者らが協働して利用促進 大垣市との意見交換・視察～

鉄道特性活性化P Tの活動として、岐阜市に続き、4月13日に岐阜県大垣市との意見交換会と養老鉄道および樽見鉄道の現地視察を行った。太田教授を含めP Tのメンバーら15人で大垣市役所庁舎を訪問し、粥川大垣市議会議員の仲介のもと、大垣市の交通政策に関する意見交換を行った。

大垣市は岐阜県の西部に位置する岐阜県第2の市で人口は約16万人。大垣市の交通政策の担当者からは第三セクターとして運営する養老鉄道の現状などをお聞きした。

養老鉄道の路線は、従来、近畿日本鉄道（近鉄）によって運営されていたが、利用者の減少などから経営状況が悪化し、2007年から上下分離方式による形態に移行した。線路などの施設を近鉄が第三種鉄道事業者として保有しながら近鉄の子会社として養老鉄道が第二種鉄道事業者となり運営が移管された。さらに2017年度には近鉄に代わって沿線7市町が出資して設立する法人「養老線管理機構」が第三種鉄道事業者となり、養老鉄道が第三セクターとして第二種鉄道事業者となって引き続き運行を担う体制に移行することになる。大垣市からは、養老鉄道の経営において、現在は社員のほとんどが近鉄からの出向者であり、今後、プロパー採用を増やすことが必要であること、設備を保守する機構には技術者が不足していること、車両の老朽化など新たな経営形態における様々な課題をはじめ、住民を巻き込んだ利用促進に向けたアクションプラン策定などについてもお話しいただいた。

養老鉄道は、2017年度中に改正地域公共交通活性化再生法に基づく「地域公共交通再編実施計画」への認定に向けた手続きを行っている。養老鉄道を沿線住民や沿線地域への来訪者の移動手段として定着させるためには関係者らの連携が欠かせない。持続可能な地域公共交通として確保・維持するため、非利用者が利用可能となる条件への対応、人口減少・高齢化などの社会情勢の変化に配慮するよう、沿線7市町、交通事業者、



大垣市担当者を前にP Tの取り組みを説明する政所政策・調査部長



養老鉄道の薬膳列車内では「養老の滝」の寸劇も見所のひとつ

地域住民などの関係者らが協働して利用促進を展開していくことが急務であるが、現実的には簡単には進まないようである。

意見交換後、養老鉄道のイベント列車「薬膳列車」に試乗し、地元企業とタイアップした活性化の取り組みを体感することができた。また、大型商業施設へのアクセスのために新駅を設置した大垣市と隣接する本巣市を走る樽見鉄道にも試乗した。

今回の視察においては、路面電車の廃止からバスによる公共交通の発展・充実に至る事例や地方鉄道を第3セクター化して懸命に維持する自治体の取り組みを学ぶことができた。

J R連合は、これまでのP T会合での議論および各地を視察して得た知見などを踏まえ、鉄道特性活性化P Tの最終答申を取りまとめていく。